

平成29年度東北ブロック研修会の報告

日 時：平成29年8月26日（土）13時15分～16時30分

場 所：青森市文化観光交流施設 ねぶたの家 ワ・ラッセ

参加者：77名

- 1 全国保健師長会活動報告：全国保健師長会 岡島さおり 常任理事
- 2 研究報告：「地域包括ケアシステム構築の推進にかかる保健師の役割に関する研究」
埼玉県狭山保健所 斉藤富美代氏
- 3 **講演「地域に責任を持った活動のために保健師に求められること」**
札幌市保健福祉局高齢保健福祉部地域包括ケア推進担当部長 岡島さおり氏
- 4 グループワーク
「地域に責任を持った活動を進めるためには」

内 容：札幌市の岡島氏の講演では、「地域を見る力」「公衆衛生看護の実践力」「組織マネジメント力」をポイントに話されました。保健師活動のコアである「みる」「つなぐ」「動かす」を通して、地域の保健福祉課題をどう見るか、量的データに基づく地域アセスメントや質的データに基づく地域アセスメントが大切であり、個別支援をしっかりとやりきることが地域の課題解決に向かう第1歩となる。住民の生活にしっかりと向き合う活動から課題レベルに応じた取り組みへと発展させていくことが大切であり、そのためにも個別支援の記録はアセスメントデータの宝庫であるので、記録の仕方についても留意が必要である。仕事上収受した情報は組織内の共有・報告が重要となるため、日々の記録を報告に転換する技術が求められる。行政に保健師が配置されている意義をしっかりとらえ、組織目標（ビジョン）とその実現のための取組みや根拠を組織内で共有することが必要である。課題の抽出で終わらず、目標達成志向で小さな目標を確実に実行・達成して、大きな成果につなげて行くこと、評価の視点とその可視化が大切であるということでした。参加者からは、「保健師活動の原点に戻って仕事をしなければと思った。保健師としての視点を取り戻すことに繋がった。訪問記録の考え方やケース支援のあり方について改めて考える機会になった。」などの意見が聞かれました。

グループワークでは、講演を基に自らの活動の振り返りを行い、実践できていること、実践する場合の課題と思われること、現状と取組み等について話し合われました。地区に責任を持つことの大切さ、記録をとおした人材育成の大切さを再確認し、わかってもらうための工夫（可視化）をし、後輩が輝ける職場づくりをしていきたい等の報告がありました。最後に次期開催県である岩手県後藤理事より挨拶があり、次年度の再会を約束し、閉会となりました。

